

アメリカ都市再生調査(第7回ICHEへの参加)



研究第四部 主任研究員 高橋 浩揮

1. はじめに

第7回ICHE(7th International conference on HydroScience and Engineering)が2006年9月11日(月)~13日(水)にフィラデルフィア(アメリカ)で開催された。ICHEは、水資源や環境等に関する研究の情報交換を目的とした国際会議である。

今回、当研究所からも「快適性向上を目的とした都市河川再生」をテーマとした特別セッションに参加し、意見交換及び事例発表を行った。さらに、アメリカを代表する都市河川再生の現地調査を行ったので、その概要を報告する。

2. 第7回ICHE

ICHEは、1990年に設立され、ワシントン(1993アメリカ)、北京(1995中国)、ベルリン(1998ドイツ)、ソウル(2000韓国)、ワルシャワ(2002ポーランド)、ブリスベン(2004オーストラリア)で開催されている。今回の会議は、約50ヶ国300人の専門家が参加し、基調講演とテーマ毎によるセッションが3日間行われた。

「快適性向上を目的とした都市河川再生」をテーマとした特別セッションでは、韓国、台湾、日本による事例発表が行われ、河川再生に関する最先端の技術、特にアメニティ(快適性)の向上について、どのように計画するか、いかにして事業資金を得るか、さらには市民の合意を如何にして得るか、セッション参加者で意見交換が行なわれた。当研究所からは、鶴見川で取り組んでいる事例として「鶴見川流域水マスタープランの推進内容」の発表を行なった。



写真-1 セッションの様子

3. 現地調査

(1) ボストンの水辺の再生

ボストン市街に近いチャールズ川の右岸に、河畔林の再生が行なわれている。河畔は、街の中心部にあるパブリック・パークと遊歩道により結ばれ、歩いて気軽に行き来するこ



写真-2 ボストン湾

とができる。また、市街とボストン湾のウォーターフロントとを分断する形で障害物となっていた高架の高速道路は撤去され、地下化事業が行われている。現在、地下化がほぼ終了し、オープンスペースの整備を行なっているところであった。水辺の再生は、緑地や街と一体的な整備を進めることが重要であると感じた。

(2) ワシントンDCの自然再生

都市河川修復イニシアティブに基づき、メリーランド州等関係各州、ワシントンDC及び連邦政府が連携してチェサピーク湾の再生が行なわれている。その1つである首都ワシントンDCを流れるアナコスティア川で取り組んでいる湿地再生「ケニルワース・アクアティック・ガーデン(Kenilworth Aquatic Gardens)」の視察を行なった。この湿地はもともと個人の所有地であったが、1938年にこの公園は連邦政府に購入され、ナショナル・パークとなり、湿地の保全・復元を行なっている。多様な湿地植物や、鳥類、昆虫を観察することができる。



写真-3 湿地再生(蓮の群落)

(3) サンアントニオのリバーウォーク整備

サンアントニオ市は、テキサス州の中心南に位置する。第二次世界大戦後、サンアントニオの街はゴーストタウン化したことから、1963年、リバーウォーク再生のマスタープラン「川の遊歩道」を採択し、街の再生に乗り出した。具体的な再生プランについては、地元住民による民間組織によって提案され、街は徐々に活気を取り戻し始めた。そして、1968年の万国博覧会の開催を契機にリバーウォーク周辺には数多くのホテルも建設され、ホテル周辺のビル所有者もホテル建設に併せて改装を行っている。こうした地域住民や市の努力も実り、万博は大成功を収め、現在、全米有数の長期滞在型観光都市となった。川の流れる音、観光船、熱帯植物、鳥のさえずり、おしゃれなカフェテリアが心地よい気分を感じさせた。



写真-4 リバーウォーク